

葵区魅力づくり事業基本方針

1 葵区魅力づくり事業の沿革

まちづくりの拠点として

2 第一期 平成17年度～平成21年度

『区役所主体』のまちづくり

3 第二期 平成22年度～平成26年度

『区民と協働』のまちづくり

4 第三期 平成27年度～平成30年度

『地域住民主体』のまちづくりに向けて

5 第四期 令和元年度～4年度

『地域住民主体』のまちづくりへの転換

事業主体の
変遷イメージ

区役所主体

区民と協働

地域住民主体

各期の主要事業実績
年度に色別で表示

1 葵区魅力づくり事業の沿革

(1) 区の魅力づくり事業のスタート

平成17年4月1日、静岡市は政令指定都市に移行し、葵区・駿河区・清水区の3区を設置。居住区の区役所機能として、各種証明書の交付などを行う市民サービスの拠点機能のほか、各区の特色に応じた区行政を推進するため、「区民懇話会」の設置と「区の魅力づくり事業」を創設。

「区の魅力づくり事業」は、それぞれの区の特長、地域的な課題、区民のニーズなどを反映し、区民の交流を促進する事業、区のイメージアップを図る事業、区民サービスを向上させる事業など、各区独自の判断で行うソフト事業と位置づけ、各区1,000万円を予算化しスタート。

(2) 区の魅力づくり事業の見直し

平成24年7月、事務事業市民評価会議で、葵区の魅力づくり事業は「再構築」の評価を受ける。その結果、葵区では「活発な地域住民活動」が葵区の魅力ととらえ、区民と地域住民と葵区の協働事業の計画策定や、将来の地域住民活動の担い手不足の解消を目指す人材育成事業に取り組むこととした。

引き続き現在は「住民のみなさんが自ら考え、自ら実践する“住民主体のまちづくり”」を目指し、区の魅力づくり事業を実施している。

2 第一期 平成17年度～平成21年度

区役所主体のまちづくり

葵区のPRに取り組むことを基本方針とし、葵区が主体となり、地域の観光・自然・歴史・文化・特産品等の資源を活用した区のイメージアップ及び区の活性化事業を実施。



葵区役所

【主要事業実績】

- 平成17年度 葵区PRキャラクター“あおいくん”誕生
区界標識の設置、電柱看板や字名標識への区名表示、静岡庁舎内区役所案内標示
- 平成18年度
キャラクターを使った広報活動、三区のイメージカラー・ロゴマークの制定
- 平成19年度 葵区ブログを開設し葵区PR
大道芸ワールドカップに葵区PRブース「いい人！葵区」を出展
葵区地域情報インターネットサービスの構築、葵区情報誌の発行
- 平成20年度
あおいくんと愛犬ワサビの散歩マップ作成、葵区コミュニティマップ作成
- 平成21年度 区民懇話会の提言を事業に反映
あおいくんを探せ！葵区スタンプラリー
知って美味しい本山茶～大川地区と茶町をめぐる～
フジドリームエアラインズ機内誌広報、葵区コミュニティ写真パネルの作成



成果

キャラクターやブログ、情報誌発行、既存イベントなど、多くのツールを活用し「葵区のPR」を実施できた。

また、区民参加型の情報発信イベントを実施し葵区のイメージ定着を図ることができた。

課題

PR効果の測定方法と改善策を検討する必要がある。

区民懇話会の提言に基づく事業の評価指標の設定やその検証方法について検討する必要がある。

検証

情報発信自体を成果と捉えたPR活動は、一部の協力者によるアンケート結果での効果測定に留まり、実質的な効果検証が困難である。受信側の取捨選択に期待するバラマキ事業を実施するのではなく、客観的な区民ニーズに見合う事業に内容・手法ともに切替る。

3 第二期 平成22年度～平成26年度

区民と協働のまちづくり

第3期区民懇話会の提言に基づき、**葵区と区民が協働**する手法の転換に向け、地域資源を活用した区のイメージアップ及び活性化に加えて区民交流事業、地域の人材育成事業、区民ボランティア事業を実施。

【主要事業実績】

平成22年度 『区民と協働』を基本とすることを目指す

葵区フェスタ～いいじゃん！葵区あったかフェスタ
葵区スタンプラリー、葵区歴史探訪、葵区コミュニティ写真展

平成23年度

葵区魅力自慢めぐり4事業「お茶で魅せる葵区」「写真でおりなす葵区が 初展」
「地域の絆、伝統文化を未来へつなごう」「知っていますか？葵区に伝わる民話」

平成24年度

『区民と協働』を基本とする事業に全面リニューアル

女性区民ボランティア“葵絢爛”と地域住民による地域プロモーション
「葵区 茶ミット」「葵区食べ歩きマップ」「山とまち区民交流」
地域人材育成「地域づくりアドバイザー」派遣事業
3区連携宿場マップ「府中宿」マップ作成

葵区の魅力を「地域住民活動」と捉え、2つのテーマを柱に
自治会連合会活動を支援する計画を策定

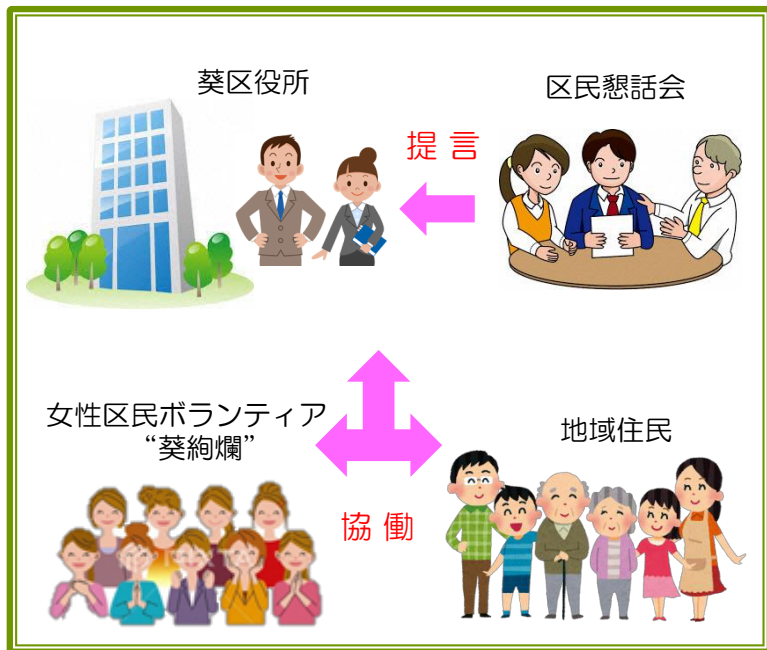
平成25年度

「山とまち区民交流」 梅ヶ島、中藁科、清沢
「葵レストラン」 井川、玉川、梅ヶ島、大川

平成26年度

地域の実情に見合う3テーマ×3手法を採用

「山とまち区民交流」 梅ヶ島、中藁科、井川
「郷土食」 井川、玉川、梅ヶ島、大川
「葵トラベラー」 梅ヶ島、足久保、大川、清沢、玉川、井川



成果

【前期】協働実施により区民の事業参画が図られ、それを通じて地域の担い手不足の解消に向けた取組が実施できた。

【後期】事業の内容、手法ともに地域住民ニーズに見合う事業を新たに計画・実施できた。

課題

【前期】地域住民（自治会連合会）への強制的な協力要請とも言える協働事業手法を見直す必要がある。

【後期】地域住民ニーズの把握を強化し、実情に見合う事業計画策定が必要。

検証

協働手法を採りつつも地域住民の主体性向上に向け、地域課題の多様化に対応する事業体系及び手法を採用した結果、参画地域の増など地域住民が事業を通じコミュニティの維持を図ろうとする意識が強まり、事業の有効性が評価できる。

4 第三期 平成27年度～平成30年度

地域住民主体のまちづくりに向けて

第3次総合計画に基づく「**住民主体のまちづくり**」を目指し、地域の実情に見合う事業手法、機会創出、継続性を計画し、葵チャレンジャー及び葵トラベラーなどを実施。区民意見聴取で掲出した課題の解決に向けて、即対応・実施するなど地域住民が主体的かつ継続的に地域活動に取り組む環境創出と地域連動のまちづくりに取り組んだ。

【主要事業実績】

平成27年度 **区民意見聴取の実施。区の機能強化。地域連動旗揚げ。**

「山とまち区民交流」	梅ヶ島、井川、松野、中藁科	} 等10学区
「まちなか区民交流」	横内、お跣振興会（38学区加盟）	
「郷土食」	玉川、大川、梅ヶ島	
「葵チャレンジャー」	青葉、井宮北、清沢、梅ヶ島	等6学区
「葵トラベラー」	梅ヶ島、足久保、大川、清沢、美和	等26学区

平成28年度 **区民聴取意見を即実施。地域連動の促進強化。**

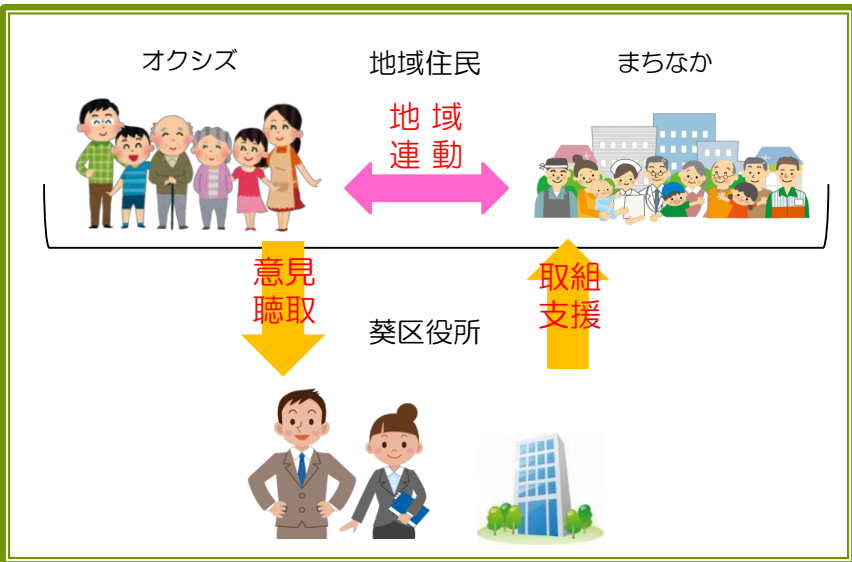
「区民交流」	梅ヶ島、中藁科、井川、松野	等3学区
「葵チャレンジャー」	梅ヶ島、井川、北沼上	等19学区
「葵トラベラー」	梅ヶ島、足久保、大川、清沢、玉川	等31学区

平成29年度 **区民聴取意見を即実施。地域内/外の住民参画を促進。**

「葵チャレンジャー」	梅ヶ島、井川、西奈南、千代田東	等29学区
「葵トラベラー」	足久保、大川、清沢、玉川、中藁科	等28学区

平成30年度 **区民聴取意見を即実施。初々NEXT50実施。地域連動拡大。**

「葵チャレンジャー」	梅ヶ島、井川、大河内、大川	等23学区
「葵トラベラー」	松野、服織西、清沢、玉川	等29学区
「初々NEXT50」	井川、玉川、梅ヶ島、大川	等6学区



成果

各自治会連合会と協力して取り組むことで、地域課題や地域の取組に対して、地域住民が積極的な参画を行うことができる環境創出に結びつけた。

課題

多様化する地域課題を解決していくためには、地域住民一人ひとりが地域を知り、考え、行動する必要があることから、地域住民による地域の取組への持続的な参画が必要である。

検証

地域主体の取組（葵トラベラー）の件数は当初と比較し増加しており、住民が主体的に地域活動に取り組む環境創出に結びつけることができていることから、住民主体のまちづくりに向け、地域が主体的に活動していると評価できる。

5 第四期（令和元年度～4年度）の基本方針

地域課題は多岐に渡り、地域内住民のみ、単一地域のみでは解決まで結びつけることが困難なケースも多い。「住民主体のまちづくり」への転換を図るためには、「一人ひとりの住民が、地域の将来を主体的に考え、地域活動や課題解決に対して持続的に取り組むこと」が必要である。

そのため、多くの地域住民が地域活動や課題に対して取り組む環境を創出すること、また、地域を超えて住民が主体的に協力・連携する「地域連動」を重点的に実施し、地域住民主体のまちづくりへの転換を図る。

令和2年度 目標

参画延べ学（地）区数：55学（地）区

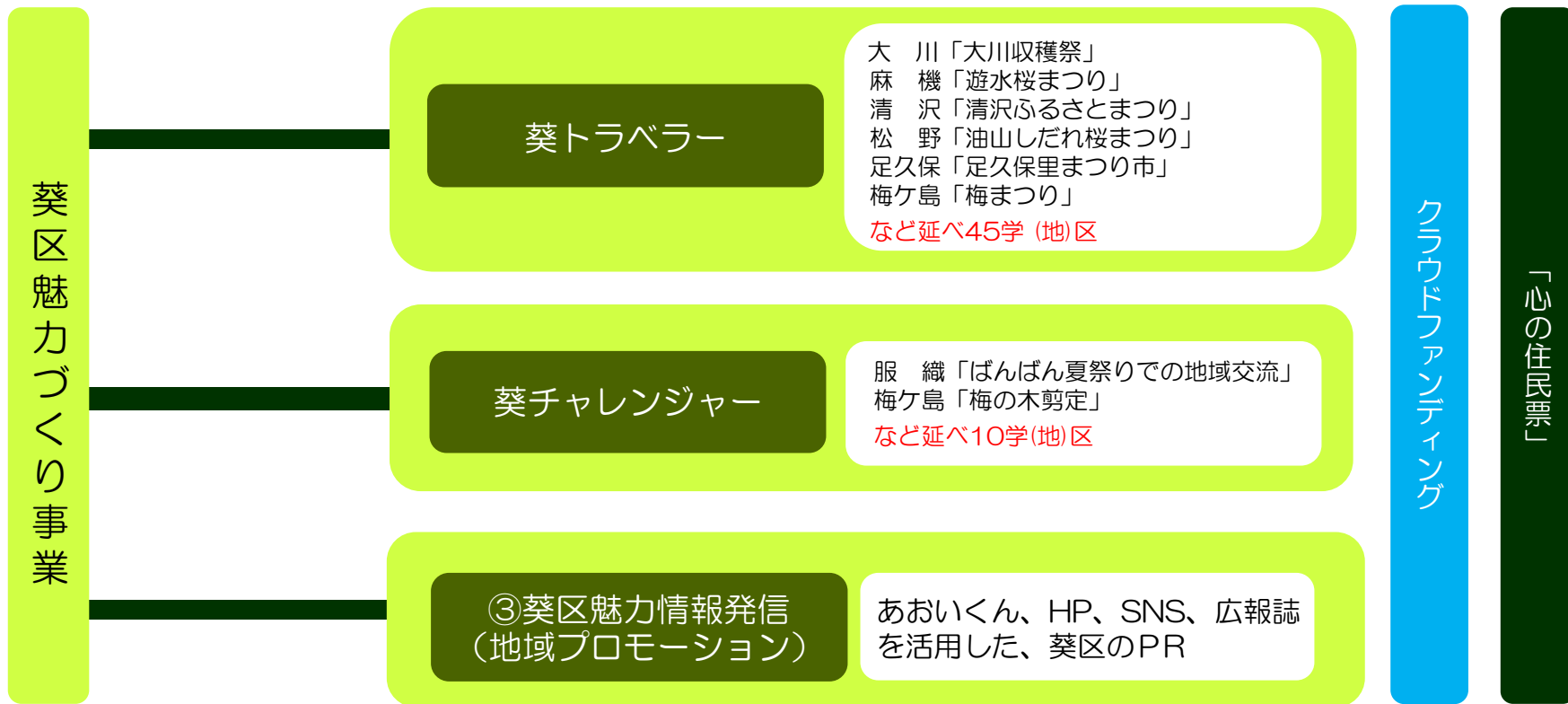
地域連動延べ学（地）区数：41学（地）区

“住民主体のまちづくり”への転換に向け、地域住民の課題解決に向けた取組を支援し、地域住民が地域活動に持続的に参画できる環境創出を推進する。

- ◆ 地域活動への集客支援や地域課題の解決を通じた住民参画の促進
 - ・ 住民参画の体制づくりや課題解決を地域と協働で進める（葵チャレンジャー）
 - ・ 地域プロモーションに資する取組への集客と地域活動定着化を支援する（葵トラベラー）
- ◆ 持続力ある地域活動にしていくための取組を推進
 - ・ 地域の活動資金確保のための、クラウドファンディング活用
 - ・ オクシズ地域を対象とした「心の住民票」の取組推進の検討
- ◆ 葵区PRキャラクター“あおいくん”を有効活用した地域情報の発信

令和2年度 葵区魅力づくり事業基本計画「事業体系」

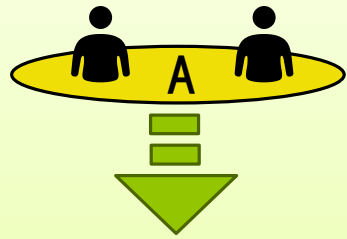
事業手法を3分類し、地域の課題解決や集客支援、地域PRを通じて地域住民の主体性向上を図ることで、住民主体のまちづくりを目指す。



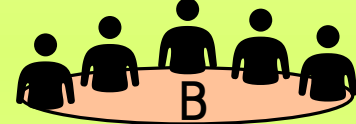
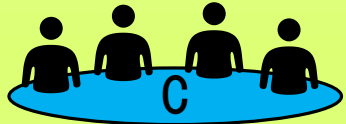
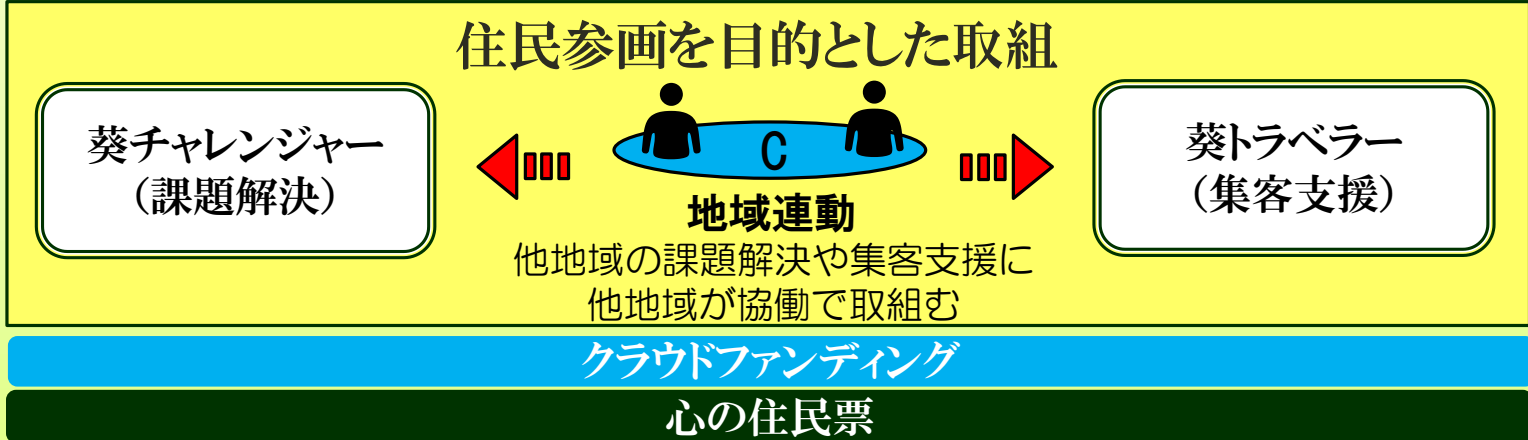
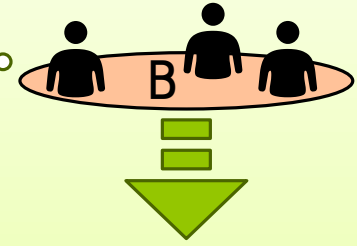
令和2年度予算

費目	報償費	賃借料	消耗品費	使用料	役務費	旅費	合計
葵トラベラー	3,440,000	5,150,000	—	—	—	—	8,590,000
葵チャレンジャー	1,950,000	220,000	—	—	—	—	2,170,000
葵区魅力情報発信	—	—	537,000	100,000	540,000	63,000	1,240,000
合計	5,390,000	5,370,000	537,000	100,000	540,000	63,000	12,000,000

葵区には中心市街地から山間地まで様々な地域が存在し、それぞれに歴史や風土がある。各地域が持続的な地域運営を実現するために、地域の取組に参画する住民を増やし、地域間の良好な関係構築に向け取り組んでいる。



地域の草刈りがやりきれない...
お祭りを運営する住民が減少している
などの地域課題



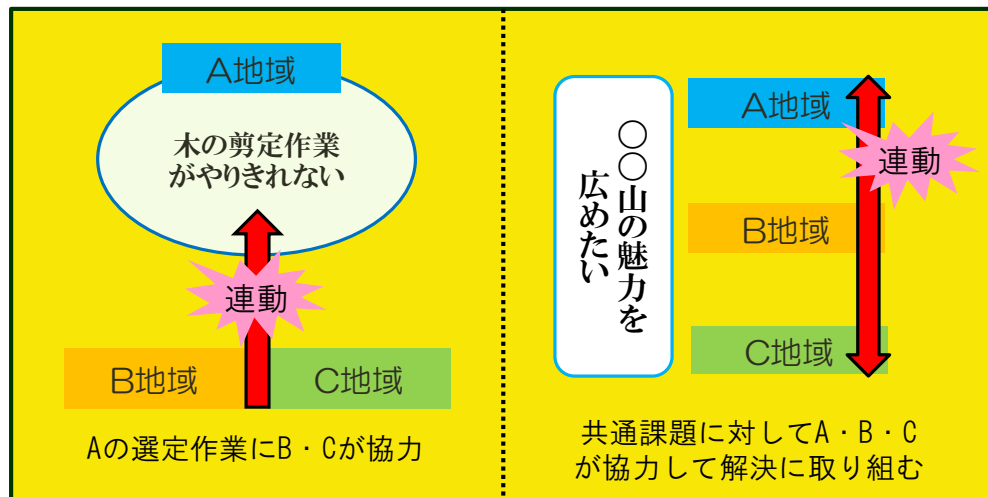
住民が地域の取組に参画する機会を創出し、地域活動に関わる住民数を増加させることで、将来にわたる持続的な地域運営に結びつける。また、地域連動をきっかけに、地域同士の良好な関係を築くことで、広域的な課題等に対しても、自主的に解決できる体制も創出する。

※＜参考＞「地域連動のまちづくり」とは

地域連動のまちづくりとは

将来の人口減少によるコミュニティの活力の低下や、1つの地域だけでは解決が難しい課題に対して、区が他の地域や行政とのパイプ役を務めるなど、地域の垣根を越えた協力体制を構築しながら、地域課題の解決に向けた取組みを行う活動です。

地域連動イメージ



取組事例

【梅ヶ島「梅の木剪定」】

梅ヶ島の街道沿いに約800本植えられている「梅の木」は、地域で維持管理がなされてきたが、人口減少や高齢化等を背景に、維持管理が困難となっていた。そこで平成27年度から葵区全学（地）区に「剪定作業」の協力を呼び掛け、葵区を挙げて、梅ヶ島学区の課題解決に取り組んでいる。毎年、多くの自治会連合会が協力し、令和元年度は雨天にも関わらず、「13学（地）区62名」の参加があった。これにより、維持管理の負担が軽減することに加えて、他学区が梅ヶ島に協力してくれているという姿勢が、梅ヶ島住民が地域の取組に参画する意識向上に繋がっている。



◀ 梅の木剪定の様子

※＜参考＞取組事例

葵チャレンジャー

第2ブロックと第6ブロックのパートナーシップ

平成30年から、隣接する第2ブロックと第6ブロックで「まちづくりパートナーシップ」を構築する取組を開始。各地域が大切にしてきた歴史・文化・自然などに対する相互理解を深めることで、将来に向けた地域コミュニティの維持・拡大に繋げています。

例えば、聖一国師のしだれ桜(大川)を田町公園に植樹したり、ばんばん夏祭り(一番町・三番町)に服織・大川・清沢地域が出店するなど、積極的な交流を実施しており、葵区としても双方が将来にわたり、友好的な関係を築いていけるよう下支えしていきます。



▲ばんばん夏祭りへの
第6ブロック各自治会連合会の参加の様子

葵トラベラー

麻機編 遊水桜まつり



多くの地域住民が関わり、今なお開発が進む麻機遊水地で、「遊水桜まつり」を実施。お祭りには学区内の全単位自治会・町内会が出店を行うなど、住民が地域活動に参画する機会増進に繋げている。加えて、麻機遊水地や麻機レンコンといった地域の魅力を住民自らがPRすることで、住民が地域について自ら考え、行動する環境創出にも繋がっている。

北沼上編 刻印石巡り&竜爪フェスタ



北沼上・西奈・西奈南学区が連携し、「竜爪フェスタ」を開催。お祭りを通じて、近接学区の連携を強め、3学区で実施する課題解決に向けた取組に着手できる体制を構築することが出来ている。また、北沼上においては駿府城に関連する刻印石にちなんだ地域の魅力をPRする取組も始めている。